



(写真) MOTUM “トラックメーカーIveco 2024年の組み立て台数目標 前年3倍の160台”

2024年7月8日(月曜)

政治

- 「野党系市長3名 マドゥロ大統領支持に寝返り  
～バリナス州 Abreu 市長は寝返りを否定～」
- 「カプリレス元知事にクーデター計画疑惑？」

経済

- 「米 OFAC 液化ガスの取引ライセンスを延長」
- 「輸入品の免税措置 8月末まで延長」
- 「中銀 6月のインフレ率は先月比1.0%増」
- 「Argus 6月産油量は日量86万バレル」

社会

- 「チャカオ警察 2.3万ドルの詐欺被害」

2024年7月9日(火曜)

政治

- 「国連の選挙専門家パネル ベネズエラ到着」
- 「伯大統領 ベネの選挙は全世界に認められる」
- 「検事総長 コロンビア政府に捜査協力要請」

経済

- 「Iveco 2024年の組立台数目標160台」
- 「トルコ企業団と投資・貿易拡大で合意」
- 「Shell 天然ガス埋蔵地帯 Manatee の開発継続」

社会

- 「殺人発生率は激減したが、一般犯罪は依然続く」
- 「筋トレを趣味にする費用 月額200ドル」

2024年7月8日（月曜）

## 政治

「野党系市長3名 マドゥロ大統領支持に寝返り  
～バリナス州 Abreu 市長は寝返りを否定～」

7月8日 ホルヘ・ロドリゲス国会議長は、7月28日に予定されている大統領選について、4人の野党市長がマドゥロ大統領の支持に回ったと発表した。

ロドリゲス議長によると、マドゥロ大統領支持を表明した4人の市長は、

- ・コヘーデス州 Tinaco 市の Juan Carlos Zamora 市長
- ・バリナス州 Obispo 市の José Azuaje 市長
- ・バリナス州 Rojas 市の Pedro Antonio Abreu 市長
- ・グアリコ州 San Juan de Los Morros 市の Sulma Avila 市長

ロドリゲス議長は「勇気ある行動」と4名を称え、「平和を守るため我々は常に両手を広げて迎え入れる」との見解を示した。

しかし、実際にマドゥロ大統領の支持を表明したのは上記4名のうち Juan Carlos Zamora 市長、José Azuaje 市長、Sulma Avila 市長の3名のみ。



(写真) ホルヘ・ロドリゲス国会議長 X

この記者会見後、Pedro Antonio Abreu 市長はロドリゲス議長の発表を否定。

「私はソーシャルメディアにて、独立市長としてニコラス・マドゥロを支持したとの私に関する情報を知り驚いている」「この発表について、断固として拒否する」

「私は、野党統一連合（MUD）の市長であり、エドモンド・ゴンサレス候補を支持していると発表した。

Pedro Antonio Abreu 市長について誤った情報が発表された経緯は不明だが、少なくとも3名はロドリゲス議長の宣言通りマドゥロ大統領の支持に回ったようだ。

なお、3市長がマドゥロ大統領の支持に回った理由については不明である。

## 「カプリレス元知事にクーデター計画疑惑？」

コロンビア元ゲリラの Salvatore Mancuso 氏は、故チャベス元大統領がベネズエラの大統領を務めていた当時野党政治家・起業家・ベネズエラ軍人らからクーデター計画への支援を求められていたと告発した。

Mancuso 氏は、当時のクーデター計画に加担していた人物として、2012年10月、13年4月の大統領選の野党統一候補に選ばれた「第一正義党（PJ）」のエンリケ・カプリレス元ミランダ州知事の名前を挙げた。

他に Oswaldo Álvarez Paz 氏、Zingg Machado 氏、Alfredo Catalán 氏らの名前を挙げている。

「ベネズエラ政治家・企業家は、チャベス政権（当時）を倒壊させることに強い関心を持っており、一部の軍人は関与もしていた」

「銀行家との会合の際、彼らは大統領府を空爆し、軍事基地を占拠し、チャベス大統領（当時）を殺害する計画について議論していた」と訴えた。

カプリレス元知事は、この告発を否定。

「マドゥロ政権による無責任で誤ったプロパガンダを断固として拒絶する」「彼らの目的は我々が傾倒する選挙ルートを閉ざすことだ」「我々は常に働き続ける」と反論した。

また、野党「統一プラットフォーム（PUD）」も今回の告発を拒絶。野党政治家に対する虚偽の情報拡散を批判し、民主主義的で合法的な政権交代を望んでいると主張した。

## 経 済

### 「米 OFAC 液化ガスの取引ライセンスを延長」

7月8日 米国「外国資産管理局（OFAC）」は、制裁ライセンス No.40C を発効。ベネズエラへの液化ガスの販売許可を更新した。

ベネズエラ向けの液化ガスの輸出を許可する「制裁ライセンス No.40」は2021年に発行し、更新が続けられている。

これまで同ライセンスの有効期限は2024年7月10日だったが、今回の更新により2025年7月8日までベネズエラ向けの液化ガスの輸出は許可されることになった。

液化ガスは、家庭で使用するガスで、液化ガスがなければガスで火を起こすことができない。

2019年1月 米国が PDVSA に制裁を科し、外国から液化ガスを調達することに制限が生じるようになった。

暫くはロシアの「Rosneft」が液化ガスを供給していたが、2020年に米国のトランプ政権（当時）はマドゥロ政権への国際的な締め付けを強化。

「Rosneft Tradings」に制裁を科し、「Rosneft」はベネズエラ事業から撤退。これを受けてガソリン不足と並び深刻な液化ガス不足に陥り、家庭用ガスの供給が制限された。

これを受けて、首都カラカスでも薪を使って火をおこす家庭が増え、火災リスクも含めて一般市民の生活が大きく悪化。

最終的に2021年にバイデン政権は制裁ライセンス No.40 を発効し、液化ガスのベネズエラ向け輸出を許可した。

### 「輸入品の免税措置 8月末まで延長」

マドゥロ政権は、一部の品目の輸入にかかる免税措置を8月31日まで延長した。免税の対象になるのは、付加価値税と輸入税。

この政令は2024年6月28日付の特別官報6818号で公布されている。

対象となる品目は2023年12月29日付の特別官報6784号と変わっていないが、「徴税庁（SENIAT）」の判断により変更される可能性がある。

なお、23年12月付の特別官報6784号によると、付加価値税の90%免税、輸入税の90%が免税となっている品目は1550品目。

特定の条件下で付加価値税・輸入税が100%免除される品目は867品目となっている。

### 「中銀 6月のインフレ率は先月比1.0%増」

7月8日 ベネズエラ中央銀行（BCV）は、インフレ率を公表。2024年6月のインフレ率は、先月比1.0%増だったと発表した。

5月のインフレ率が同1.5%増だったので、物価上昇が更に減速したことになる。

2024年1～6月までの累積インフレ率は8.9%。半期の累積インフレ率としては、2008年以来の低い水準になっている。

項目別でみると、「食料・非アルコール飲料」のインフレ率は先月比1.5%増（5月は同1.9%増）。

「教育」は同1.1%増、「医療」は同0.9%増、「衣類・皮革製品」は同0.8%増、「通信」は同0.6%増、「交通」は同0.5%増だった。

なお、インフレに大きな影響を与える為替レートについて、公定レート（両替テーブルの平均値）は、5月末時点で1ドル36.49ボリバルだったが、6月末には1ドル36.40ボリバル。先月よりもややボリバル高に推移した。

### 「Argus 6月産油量は日量86万バレル」

エネルギー専門メディア「Argus」は、2024年6月時点のベネズエラの産油量について、5月の日量84万バレルから2万バレル増加し、日量86万バレルになったと報じた。

また、マドゥロ政権は日量100万バレルという目標を掲げているが、この目標達成には程遠いとした。

なお、ベネズエラの産油量を公表する組織としては、OPECも挙げられるが、OPECは7月10日に加盟国の産油量を公表する予定となっている。

## 社 会

### 「チャカオ警察 2.3万ドルの詐欺被害」

カラカス首都区検察は、24年3月にチャカオ市警察署で大規模な詐欺被害があったと発表。現時点で事件は解明しておらず、現在も捜査中だという。

被害が確認されたのは24年3月21日。

チャカオ市警の財務管理を務めるLuz Sanchez氏が、警察の銀行口座から不審な電子送金を確認したという。

詳細を確認したところ、「取引先への支払い」の名目で5回の送金が行われており、総額は2万3,455.39ドルだという。事件であることを確認したチャカオ市警は、「犯罪化学捜査班（Cicpc）」に事件届を提出した。

支払い先は3つ。1つは「Grupo Coro 2008 CA」、もう1つは「Inversiones 41 2010 CA」、最後はCNEに登録されていない個人（Banco Plazaの口座）だという。

検察庁は、「緊急事態と認識し、早急に解明する」と発表している（が、事件から既に2カ月半が経過している）。

2024年7月9日(火曜)

## 政治

### 「国連の選挙専門家パネル ベネズエラ到着」

7月9日 国連ベネズエラは、自身の公式アカウントにて、「国連の選挙専門家パネルのメンバー4名がベネズエラに到着した」と発表した。

写真を見る限り、選挙専門家パネルのメンバーは、マドゥロ政権のイバン・ヒル外相と会合を行っている。

国連選挙専門家パネルがベネズエラの大統領選を監視することは、与野党が交わしたバルバドス合意の約束の1つ。大統領選の後も数日間ベネズエラに留まる予定となっている。

### 「伯大統領 ベネの選挙は全世界に認められる」

7月9日 ブラジルのルラ・ダ・シルバ大統領は、ボリビアを訪問。

ボリビアのルイス・アルセ大統領と面談し“ベネズエラの政治正常化“について意見交換を行い、「ベネズエラの政治安定は南米の政治安定を意味する」と発言。

「ベネズエラの大統領選は正常に進んでおり、ベネズエラの大統領選は全世界に認識される」との見解を示した。

ベネズエラの大統領選が他国に認識されるかどうかは重要な問題であり、南米の大国であるブラジルのスタンスは周辺国にも一定の影響を与えることだろう。

### 「検事総長 コロンビア政府に捜査協力要請」

7月5日 コロンビア系武装勢力「La Sierra 征服者からの自警団(ACSN)」は、「ベネズエラの極右グループから、ベネズエラを不安定化させるための活動に加担するよう要請があった」と発表。

ACSN の詳細情報をマドゥロ政権に提供する意思を表明した(「[ベネズエラ・トゥデイ No.1086](#)」参照)。

7月9日 タレク・ウィリアム・サアブ検事総長は、「明日(7月10日)にコロンビアの Luz Adriana Camargo Garzón 検事総長と電話会議を行う」と発表。

「ACSN からの情報提供について、コロンビア政府にも協力を求める」と説明した。



(写真) @onuvenezuela

## 経済

### 「Iveco 2024年の組立台数目標160台」

トラック・バスなどの商用車を製造する「Iveco」は、新モデルの販売を発表した。

食品・医薬品・石油産業などを中心にトラックの購入需要が増えており、2024年は160台を組み立てる見通しだという。なお、この組み立て台数は2023年の3倍に当たるという。

IvecoのJulio Cubillán社長によると、同社のトラックは小型（7トン未満）・中型（7～18トン）・大型（18トン超）の3つのラインナップがあり、特に需要が高いのは小型・中型トラックだという。

購入時に融資を相談することも可能。

Cubillán社長によると、「Bancaribe」「Banplus」「Provincial」「Mercantil」「Exterior」「BNC」の6つの金融機関であれば融資の相談に応じることが可能だという。

また、カラカス首都区、ヌエバエスパルタ、メリダ、アンソアテギ、ララ、スリア、ポルトウゲサ、バリナスに13の販売代理店があり、各企業の要望に応じて必要なトラックを提案する仕組みになっているようだ。

なお、金額は小型トラックで4.8万ドル。

中型トラックで8万ドルだという。

### 「トルコ企業団と投資・貿易拡大で合意」

ベネズエラ経済財務省のJohann Álvarez Márquez貿易投資促進次官は、トルコ企業団と会合を行ったと発表。両国の取引拡大について意見交換を行ったと説明した。

Álvarez Márquez貿易投資促進次官によると、同会合にて、複数の投資テーマで合意を交わし、「海産品」「コーヒー」「とうもろこし粉」「オリーブオイル」「カカオ」などの輸出増加についても合意に至ったという。



（写真）Álvarez Márquez貿易投資促進次官 X

### 「Shell 天然ガス埋蔵地帯 Manatee の開発継続」

ベネズエラとトリニダード・トバゴ（TT）の領海に面する天然ガス埋蔵地帯「Manatee」には、約10兆立方キューブ（約7割がベネズエラ、3割がTT）の天然ガスが埋蔵されているという。

英国エネルギー会社「Shell」は、Manateeの天然ガス開発を実行すると発表した。

23年12月の時点で、投資の最終判断は24年に決定するとしていたが、今回の発表により正式に投資することが決定したようだ（「[ベネズエラ・トゥデイ No.998](#)」）。

TT 政府は「Shell」の決定を歓迎。

TT の Stuart Young エネルギー工業相は、「TT のエネルギー安全保障と持続可能な経済発展にとって大きな決定」とコメントした。

Young エネルギー工業相によると、2028年に天然ガスの生産が始まり商用化する予定だという。

## 社 会

### 「殺人発生率は激減したが一般犯罪は依然続く」

非政府団体「ベネズエラ暴力観測所 (OVV)」によると、2023年のベネズエラの殺人発生は10万人中26.8人。

2016年の同国の殺人発生は10万人中91.8人。世界有数の危険国だった当時と比べると殺人が大きく減少した。

しかし、殺人が減少した一方で一般犯罪は依然として多いという。

カラカスの貧困地域ベタレの「José Félix Ribas 地区」はマフィア組織「El Wilaxis」が牛耳っており、警察も介入しないという。

「El Wilaxis」の構成員は「ワクチン」と呼ばれる「ボディガード料」を地元住民に要求しており、支払いをしない人に嫌がらせをするという。

とは言え、治安は以前より改善しているようで、地元住民も「以前は携帯電話をもって歩くことはできなかったが、今は携帯電話をもって外出できる」と述べている。

### 「筋トレを趣味にする費用 月額200ドル」

ベネズエラ人は筋トレを趣味にする人が多い印象がある。

経済系メディア「Bancaynegocios」は、筋トレを趣味にするために必要な費用についてジム利用料、タンパク質を豊富に含む食事・サプリメントなど月に約200ドルが必要と報じた。

「Bancaynegocios」の調べによると、カラカスの高級ジムの利用料は月額50～120ドル。場所によっては月額180ドルかかることもあるという。また、初期登録料は40～80ドルほどかかるようだ。

ジムが一般的に備えている機材は整っており、トレーニングコーチが付いている。

一方、カラカスの一般的なジム利用料は月額20～30ドル。

ただし、トレーニングコーチはおらず、機材も台数・バリエーション共にやや少ない。初期登録料は10～15ドルだという。

また、食事については高ければ、週100ドル必要だが、支出を抑えれば月70～80ドル程度に抑えることが可能だという。

他、サプリメントは月額20～60ドルほどかかり、平均としては筋トレを趣味とするために月200ドルほどかかるようだ。

以上